

アメリカと日本の幼児教育を見学して

劉 青 霞

訳・李 恵 加

私は幼児教育の現場で働いてもう十三年になります。最近の五年間に、三回、外国で幼児教育を見学しました。一回目は東南アジアの九ヶ国、二回目はアメリカのカリフォルニアで、教育様式の違う幼稚園十六ヶ所を見学しました。そして、今回は、北カリフォルニアを訪問して、中国語海外教育について講演した際、いくつかの幼稚園を見学させていただきました。例えば、学問研究を重

んずるスタンフォード大学附属幼稚園とディアンチア大学附属幼稚園、二ヶ国語を併用する幼稚園、幼稚園から小学校までのモンテッソリー学校です。帰る途中、日本によって、お茶の水女子大学附属幼稚園を見学しました。これらは個人的な訪問でしたので、ほとんどの幼稚園で午前九時から午後五時まで、二日間にわたって、ゆっくり、詳しく観察することができました。私はそれらの幼

児教育の精神を深く研究したいと望んでいます。

アメリカのスタンホード大学附属幼稚園とディアンチア大学附属幼稚園を見学した時、カリキュラム、環境設備、教具の使用法、幼児の個別的記録と特殊児童の指導、教師の研修、両親相談、母親参加……などが私の幼稚園で行なっていることと同じであることを見いだしました。それらの大学の教授たちは、私と話し合った際、遠い所の国も同じことを考えて行なっていることを知り、大へんよろこんでいらっしやいました。

日本に滞在した間に、私はお茶の水女子大学附属幼稚園とまんとみ幼稚園を見学しましたが、この二つの幼稚園は誘導保育と自然に帰ることを教育趣旨として教えています。子どもたちは朝登園してから帰るまで、自分の興味によって、好きな所で、やりたいことをやっています。例えば、戸外には、泥をいじる、火をつけて水を沸かせる。バスケットボールをする、鉄棒にぶらさがる、大工

ごっこやなわとびや滑り台で遊ぶなど、様々な遊びをしている子どもがいます。また、室内には、ママゴト、トランポリン、お絵かき、粘土などをやっている子ども、あるいは、なにもやっていない子どももいます。子どもたちは自らグループを形成したり、また個別的に活動したりしています。つまり、戸外と室内活動を同時に行ない、時間割と年齢別クラス編成を廃しているのです。ダイナミックな活動とスタティクな活動を同時に行ない、子どもたちは子どもたちの世界の中で、自由自在に活動し、十分に満喫しています。

このような幼稚園において、先生の役割は、いつでもどこでも子どもたちのそばに在るということです。やさしい母親のように絶えず暖かい手を延ばして、黙って子どもたちを支え、慰めと指導を与えるのです。表面的には、子どもに何かを教えようとする先生の意志は見られませんが、子どもたちに何かをやらせようとすることもありませ

ん。しかし、子どもたちが登園する前、先生はそれぞれの子どもに即して、すべてのことを考えて、材料と環境などを用意しています。そして、子どもにも自由に「いるかいらないか」という選択をさせています。私は、先生と先生との間、先生と子どもとの間の関係は見えない糸のように互いに無理なくつながっていることを感じました。子どもたちは毎日このような自由保育の環境の中で自ら学んでいるのです。

自由遊び保育において、幼稚園はさながら小さな社会であり、子どもたちは人間関係、社会規範を学んでいきます。仲間や大人との間で、仲良くし、友達を尊敬し、友達から尊敬されていくことの大切さを認識し、さらに、独立して、能動的に、問題を解決する能力を学んでいきます。子どもは脳細胞はこのように絶えず刺激し、考え分析し、判断していくことの中で成熟していきます。そうすると、情緒的な発達のパランスが得られ、

知能が開発され、更に、自信と成就感を得て、「自我」という概念がうまく形成されていきます。従って、このような幼児教育こそ、真実の教育であるとはいえないでしょうか。

今回、ディアンチャ大学附属幼稚園を見学した際、幼児教育の三つの様式についてのディスカッションに参加させていただきました。それは幼児教育学専攻の大学生三十名が三つの組に分かれて、幼児教育の三つの様式について、調査、比較、整理し、最後に指導教授が結論を下すというものでした。

(1) 伝統的教育法……知識をつめこむことを重んずるものであり、温和な性質の子どもには適しているが、そうでない子どもにおいては、社会的技能を培うことに欠けるといふ失敗をおこしやすい。

(2) モンテッソーリ教育法……その幼児教育精神は、感覚教育を重んじ、子ども自分自身のテンポ

で「自発的」に学ぶということであるから、自信と成就感を得やすい。しかし、子どもの能力の程度に生じる差異が著しい。

(3) オープンエデュケーション教育法……集団と個別の活動は同じ重要性を持つ。自由時間において、子どもの社会性は培われ、小グループの学習活動によって、子どものすべての基本的な能力は養われる。一対一の個別的指導では、子ども自身のテンポで学ばせていく。この教育法には、多くの方法があり、子どもに様々な選択をさせていく。このような教育を受けて、子どもは基本的な生活態度と柔軟性を持つ人格が養われる。

様々な教育様式には長所もあり、短所もあります。社会において、いろいろな人に適用するためには、様々な教育様式が存在する価値があります。私は、どのような教育様式が一番よいかということとは断言いたしません。両親と先生たちは自身自身の基本的な信念によって、子どもに適する教

育様式を選ぶのが一番よいことであると思っております。

私は、アメリカと日本を見学した、この五十日間を通して、精神的緊張を感じましたが、幼児教育の領域のなかで、突然、雲が消えて、青い空が見えるように理解できる何かを感じました。また、アメリカ、日本、中国それぞれの社会において、文化の相違を深く体験しました。今後、それらの問題について、皆様に詳しくうかがっていきたくと望んでいます。

(台湾新店 明德幼稚園)

『明德通信25』1984—25 明德幼稚園発行より』